



● あおい地区会の事務所が入るあおい西集会所は、バラエティに富んだイベントの会場にもなる



● 子どもの日が近くなると、各家に小さな青い鯉のぼりが飾られる



● 夏休み中の子どもたちが元気に夏を過ごせるようにと「かき氷まつり」を開催



● 地区に住む子どもたちが企画したハロウィンのパレード



● 国内の大学や高校、自治体などのほか、海外からの研修や視察も受け入れている



あおい地区会

住む人たちが笑顔で毎日を送る 日本一のまちづくりを目指して

あおい地区は約580世帯が暮らす東日本大震災の集団移転地区で、東矢本駅の北側に位置します。地区内の11丁目から3丁目のそれぞれに自治会があり、その3つの自治会を横断して活動するのが「あおい地区会」です。

「なにをしての？」と高齢者のご自身に訪問するのは、「高齢者等見守り部会」の見守りメンバーたちです。高齢者やひとり暮らしで見守りを希望する人の家を10名のメンバーが二人一組で訪問し、安否確認や困りごとの相談に応じるなどしています。

見守りメンバーの栗石かほるさんは「近所のお宅を訪問する感覚で見守りをしています」と話します。「あかこちお茶飲んでつこ」と声をかけられると、お茶をいだきながらお喋りをします。時にはインターホン越しに会話することもあるので、相手に合わせた自然体の見守りスタイルで、住民同士が助け合っています。

「高齢者等見守り部会」では訪問活動のほか、あおい農園と名付けた畑で枝豆とサツマイモづくりをしています。活動的な高齢者を中心に畑仕事に参加するメンバーはおよそ50名。頻繁に参加できるメンバー約30名を2班に分けて植えて水やり、

草取りなどの作業を行っています。

農園の管理を担当している佐藤一雄さんは「一緒に作業をするとお互いのことがわかるよね」と言い、まわりの仲間も笑顔でつなぐっていました。

夏が旬の枝豆を8月22、23日に収穫し、25日に販売会を行いました。販売会のお知らせは、地区内の各戸に配ったチラシのみ。それでも販売会場の集会所には開始時間から続々と枝豆を自営で地区の人たちが訪れました。

販売会では会話にも花が咲きます。「ずんだを作るのかな」と言う人や、「さつま煮って帰ったら妹も欲しいっていつからまた来たの」と話す人も。足が痛いという女性からの「なんとか歩いてきたけれど、運ぶのを手伝ってもらえないか」とのいうエピソードに、メンバーが快く配達を引き受ける様子もありました。

同地区会には、「高齢者等見守り部会」のほかに、集会所や公園などの維持管理を行う「公共施設管理部会」、ペットの散歩時にパトロールやごみ拾い活動を行う「あおいペットクラブ」、イベントの開催や研修の受け入れを行う「研修イベント部会」があります。

新型コロナウイルスの影響を受け、規

模縮小や開催を見送っている行事もありますが、「親子風あけ大会」「青いこいのほりと春のフットボールフェスティバル」「夏祭り」、子どもたちが企画する「ハロウィンパーティー」など、地区内では季節ごとにさまざまなイベントを開催しています。

外部の団体や個人との交流も盛んで、防災やまちづくりに関する研修などで国内外から多くの団体や学校を受け入れています。震災関連の支援者や研修で訪れた団体とのつながりを大切にしているのもこの地区の特徴です。

小野竹一会長は、「集団移転の計画の段階から、ここに住む人たちが何度も話し合いを重ねてきました」と言います。住民主体で「日本一のまちをつくる、ことを目指しているあおい地区では、おとなも子どもも安心して快適に暮らせるまちづくりのために、工夫を凝らした活動が継続されています。

こうした積み重ねにより、東松島市で取り組むSDGs（持続可能な開発目標）の「住み続けられるまちづくり部門」と「パートナーシップで目標を達成しよう部門」に選出されました。今後も住民みんなの笑顔大切にたまちづくりが展開されていくこととしよう。



● 見守り活動は、相手に応じた会話で信頼関係を築いて、訪問が難しい時には電話で安否確認をすることも

人物

Key Person.

あおい地区会会長
小野 竹一 さん

「喜んでもらいたい」という気持ちで活動しています。自分が楽しいと感じることを、ここに響かす皆さんや研修やイベントで訪れる人たちと一緒に楽しんでいます。

あおい地区会副会長
栗石 かほる さん

見守りも農園の作業も夢中ですが、必要とされていると思えることが嬉しいですし、相手が楽しんでくれることが喜びです。

あおい農園管理責任者
三浦 文雄 さん

トラクタの運転手だったので畑仕事は見よう見まねです。ボランティア精神でやっているところもありますが、自分のためにもなっているような気がします。

あおい農園管理責任者
佐藤 一雄 さん

この地区に移住するまで知らなかった人が多いですが、一緒に畑仕事をすると友達が増えました。仲間たちと体を動かしたり、笑いあえるのが楽しいです。



「あおい農園」で収穫したサツマイモ



東松島市に台風19号の被災地支援として農園で収穫したサツマイモを届けた



『島』と『山』一文字違いの姉妹都市 東松山市へ感謝の気持ちを込めて...

● 東松島市・あおい地区会

「昨年と昨年の秋、あおい地区会の小野竹一会長をはじめとした有志が、あおい農園で収穫したたくさんサツマイモを車に積んで埼玉県東松山市を訪問しました。東松山市は2019年に台風19号により大きな被害を受けていました。あおい地区会は被災者支援としてサツマイモを煮かしてふるまったり、生のサツマイモを市役所やボランティアに託して被災した地域の人たちに配ってもらいました。

東松島市と東松山市は災害相互応援協定と友好都市盟約を結んでいます。両市の交流は東日本大震災の時に名前が一文字違いの東松山市に、宛名を間違えた支援物資が届いたことがきっかけの一つだったといます。その後、東松山市から東松島市に市職員の派遣や、NPOや民間企業による支援など多くの支援がありました。

2019年の台風19号による水害発生後、今度は、東松島市の職員がブルーシートや避難所用品などの支援物資を携えて応援に向かいました。あおい地区会もまた、震災後の手厚い支援への感謝の気持ちから、東松山市の人たちを応援しようと行動したのです。

市の名前が一文字だけ違うことから紡がれた交流で、お互いの市民が心を通わせています。